
モンスターハンター 守備隊の誉

白菊疾風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター 守備隊の誉

【Nコード】

N4726F

【作者名】

白菊疾風

【あらすじ】

ハンターが活躍する時代。花形職業であるハンターに、守備隊が劣っているとこれでも言えますか？

（前書き）

一読いただけましたらご感想を書き込んでいただけますと、狂喜乱舞します。

次の短編に反映させていただきますすはい。

蒼盾

その町一番の守備隊に送られる最高の誉れであり、最高の隊名。

『テオだー！』

見張り番の若者が大老殿に駆け上がってくる。

月も消えようとする早朝前、辺りはまだ薄闇ですらない。

「なんと……。今月で三度目か。守備隊はどうなっておる！？」

古龍繁殖期。数百年に一度訪れる暗黒の時代。

人類はそれまでの繁栄を白紙に戻されてきた。

明けがたの深夜ともなれば、大長老と右大臣しか詰めていない。

「蒼盾のところが出ています！」

「うぬ、避難警報鳴らせ。民の避難が終わるまでは彼らに踏ん張ってもらわねばなるまい。」

狂ったように警鐘を叩く見張り番。

小高い丘から広がる非常時の知らせに、眼下に広がっていた闇を、ぽつりぽつりと窓からあふれる明かりが照らし、人々がざわめき始める。

もう少しすれば非難が始まるだろう。

今回で何人命を落とすか、大長老は少しでも早く避難が進むよう自らも指示に加わった。

「準備はいいか。」

砦の内側で、門番と守備隊の5人が松明を囲んでいる。

守備隊は一樣に、重厚な大盾を携え長大な長槍を掲げる。

鎖帷子に金属板をあてがった重鎧を纏い、青く染められた布が全身を覆う。

「頼む。」

「食いしばれよ……」

門番が叩き付けた斧は、砦の大扉を支える綱を打ち斬り、高速で展開する扉の隙間から4人の衛兵が突撃する。

はるか遠く、暗闇の中で轟々と踊る激烈な炎が目視できた。
衛兵の背後で閉まる大扉は重々しい音と空気の流れを発し、ゆっくりと口を閉じる。

その音の重さは、扉の中で暮らす人々の命の数である。
その空気の流れは、扉が守る人々の営みである。

家族、友人、親戚、若者にとっては恋人もいよう。

人々を守るために散っていった仲間がいる。

人々を守るために燃え尽きた先達がいる。
そして、今を守るため、まさに今、同じように衛兵がいる。

宵闇がより一層、炎の存在を大きくさせる。

ここにいるのはたった4人。しかし、何百という英霊たちの後押しと、執念といえるまでの闘志を得、勝機のない強大な敵と命の削り合いをする。

4人の衛兵は同時に兜の顔当てを下ろし、恐怖と武者震いに強張る顔を隠す。

悠々と歩みを進めるテオ・テスカトル。

その先には4人の衛兵。

炎の支配者は目の前の小さな4つの影を己の脅威とも認識せず、しかし見下しもせず、ただ悠久の時を見つめてきたその大きな瞳で答えている。

その距離、わずかに長槍2本。
その時、僅かに数瞬。

長槍の先端と龍角の先端が僅かに揺れる。

「突撃!!！」
「おおっ!!」

[illegible]

朝霧を裂いて光が地表を照らす。
赤黒く広がる滲み。
飛び散った肉片。
光を照り返す金属片。

大盾は噛み砕かれ、ひしゃげた。
長槍は先端が溶かされ、芯が曲がった。
鎧は焦がされ、衝撃に大破した。

衛兵の一人は潰され、吹き飛ばされ、致命傷を負った。

衛兵の一人は噛み砕かれ、振り飛ばされ、武器を持ってない体になった。

衛兵の一人は引き裂かれ、弾き飛ばされ、右腕と右足を失った。

衛兵の一人は溶かされ、飛散し、体が無くなった。

古龍は突き崩され、弾き返され、貫かれ、燃え尽きた。

朝陽の下の衛兵たち。

盾には一様に、青く焦げた隊章が巻かれている。

業炎に焼かれ、強風に晒されてもなお、彼らの存在を彼らたらしめている。

かつて、この町が経験した史上初にして史上最悪の戦いがあった。
町を初めて襲った者「ミラボレアス」

その時、5日間に渡る戦いで町を守り抜いたのが、青い鎧を纏い、
銀の槍を掲げた衛兵集団。

今となつては伝説じみた話であるが、事実でもある。
彼らに敬意を表し、また、町を守る人間の最高の誉れを体现するこ
とから生まれたのが、青い布を盾に巻く習慣だ。

テオ・テスカトルを討伐した。
青い布を巻いた彼らは、青い布に値する働きをした。

彼らもいつか、ミラボレアスを倒した先達のように、この扉の奥で生きる人々に伝説として語り継がれるであろう。

- - - 第36次古龍迎撃報告書 - - -

明け方前に観測所によって確認されたテオ・テスカトルの討伐を遂行。

過去、第20次古龍襲来では衛兵隊全滅による皆突破を許し、500の民の命を失った。

悲しい前例を読み、隊員各自、二の舞は許されないと肝に銘じ、命をとして防衛した。

結果、皆前での討伐に成功する。

が、一人のかけがえのない命を失ったことはあまりにも大きい損失

である。

生存した我々も、今までのように町に貢献できる体ではなくなった。近年増加している古龍襲来に備え、砦の補強整備、バリスタ・大砲の増設、撃龍槍の改良を強く推進する。

それに伴う衛兵の育成、設備運用に関する技術慣熟を併せて提言する。

第36次古龍迎撃隊 - 蒼盾 -
隊長代理 デブラ・ロポス

蒼盾

その町一番の守備隊に送られる最高の誉れであり、最高の隊名。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4726f/>

モンスターハンター 守備隊の誉

2010年10月10日04時12分発行